

インフルエンザやノロウイルスなど冬に多い感染症が流行する季節になりました。昨シーズンも園内での流行が見られました。園ではこまめな手洗い・うがいを呼びかけ感染症の予防に努めています。ウイルスや細菌が一番潜んでいるところは鼻の中です。こどもはよく鼻の中に指を入れたり鼻をかんだあとの手にもついていたりします。鼻をかんだあとの手洗いを忘れずに行いましょう。

インフルエンザとかぜは何が違うの？

かぜは、喉の痛み、鼻水、くしゃみ、咳などの症状が中心で、全身症状はあまり見られません。インフルエンザは、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など、全身の症状が突然現れます。また、かぜと同様に、喉の痛み、鼻水、咳などの症状も見られます。突然の高熱が出たら病院で診てもらいましょう。

インフルエンザかも！？

- ・ 進行が速い
- ・ 38℃以上の高熱
- ・ 寒気が強い
- ・ 激しい頭痛や筋肉痛
- ・ 咳がたくさん出る



インフルエンザ脳症

異常行動に注意！

発症から2日間は要注意！

5歳以下のこどもに多い
けいれん
呼びかけても反応がない
急に怒る、うわごとを言う

このような症状が出たらすぐに医療機関を受診してください。

飛び降り・飛び出しもあるので鍵を掛け、一人にしないようにしましょう。

インフルエンザは登園許可証が必要です。

乳幼児においては発症後5日、解熱後3日経過することになっています。

送迎の方やご兄弟が感染症にかかっている場合には、インターホンで職員が対応をします。おしらせください。

感染性胃腸炎（冬場の胃腸炎はほとんどがウイルス性によるもので潜伏期も1～2日です）

受診のめやす

- 水分が飲めない・元気がない・おしっこの回数が少ない
- 嘔吐がある・水様便が続いている・38℃以上の熱がある
- 腹痛を訴える・唇の乾燥・血便がある

おうちでのケア

脱水予防にはイオン飲料を少量ずつ飲んでみて嘔吐がなければ量を増やしましょう。

麦茶や水だけではカロリー不足で低血糖症状（手足のふるえ、発汗・吐き気・からだに力が入らない、意識が遠のくなど）をおこすので注意しましょう。

** 登園については医師において指示を受けてください。 **

体力が回復し普通の食事がとれ、便が普通便にもどってから集団生活に入りましょう。

11月感染症	
かぜ	12名
アデノウイルス	2名

ホクナリンテープに名前の記入をお願いします

複数の園児が貼っている日もありますので、ホクナリンテープが剥がれた時にお名前があるとお伝えできます。



おう吐物の処理

おう吐物は、感染症の原因となる細菌やウイルスが含まれていることがあります。処理は「早く、丁寧に、正しい手順で」行いましょう。

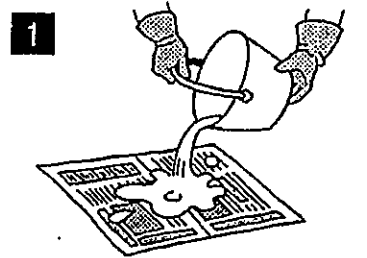
用意しておく物

- マスク
- ポリ袋
- 使い捨てエプロン
- 使い捨て手袋
- 使い捨ての布や新聞紙
- 次亜塩素酸ナトリウム (塩素系漂白剤など)



すぐ使えるよう、バケツにまとめておく

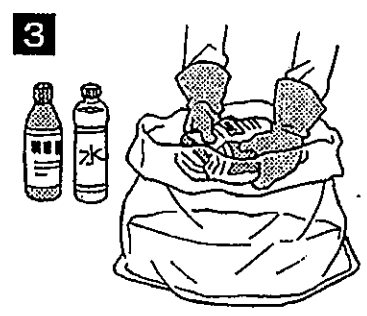
0.1%の次亜塩素酸溶液のつくり方
 原液濃度5% 500mLのペットボトル1本の水に原液10mL (ペットボトルのキャップ2杯分)



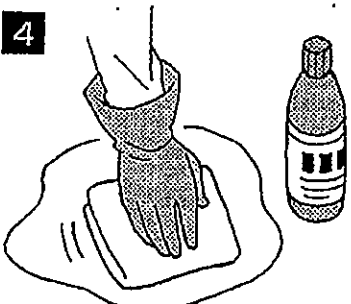
1 おう吐物に新聞紙(ペーパータオル)をかぶせて飛び散りを防ぎ、上から0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液をかける。



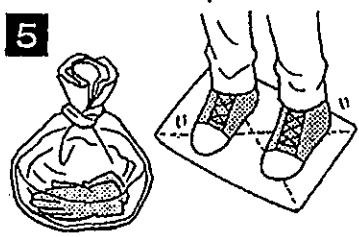
2 嘔吐物を外側から内側に集めるようにふき取る。



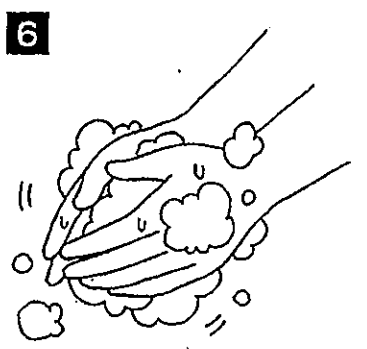
3 ふき取った嘔吐物や新聞紙を0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液を適量入れたビニール袋に入れ、密封する。



4 汚染場所やその周辺を0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液を使って消毒する。



5 使用済み手袋、マスクなどは嘔吐物と同じように処理し、靴底も次亜塩素酸ナトリウム溶液を含ませたぞうきんなどを10秒程度踏んで消毒する。



6 処理後は手洗い、手指消毒を十分に行う。

※処理方法は原因によって異なりますので、原因の特定をよく行ってください。